

第12回競基弘賞授賞者決定と授賞式開催のご案内

特定非営利活動法人 国際レスキューシステム研究機構(神戸市長田区二葉町7-1-18 会長: 田所諭)はレスキュー工学を担う若手研究者・技術者を奨励する「第12回競基弘(きそい もとひろ)賞」の授賞式を2017年1月11日に執り行ないます。

競基弘賞は防災・レスキューシステムの研究開発において、学術的あるいは技術的に顕著な業績をあげた概ね40歳未満の研究者や技術者を表彰し、将来レスキュー工学を担う若手の研究者を奨励する賞です。

1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災では、6000名以上の尊い命が奪われました。震災の教訓を生かすためにも、震災を風化させないことが重要です。当機構副会長の松野文俊(京都大学教授)は当時神戸大学工学部に在職しており、指導していた神戸大学大学院博士前期課程の1年生であった競基弘氏を亡くしました。倒壊したアパートの下敷きになり23歳の若さで亡くなった彼は将来、「ドラえもんのような人を癒し助けてくれるロボットを作りたい」という夢を語っていました。夢半ばで瓦礫の中で亡くなっていった彼の遺志を継ぎ、その夢の一部でも実現し、6000人以上の亡くなられた方々を忘れないための記念として10年を経た2005年に「競基弘賞」を創設しました。また、2009年度からは「レスキューロボットコンテスト」「計測自動制御学会SI部門講演会」で講演を行った学生を対象にした「奨励賞」、さらに2010年度からはロボカップジュニアレスキューチャレンジ参加者を対象に「奨励賞」を設け、表彰活動を行っております。また、2014年度からは、5年に1度、医学部門業績賞、心理学部門業績賞の表彰を行うこととなりました。

競基弘賞は2005年4月より募金を開始し、多くの方々から深いご理解と多大なるご厚情を頂戴しております。第12回競基弘賞は、2016年8月より公募を開始し、その中から競基弘賞選考委員会にて受賞者を決定いたしました。すでに確定した受賞者に関する経歴は次ページ以降をご高覧下さいますようお願い申し上げます。同日に授賞式と受賞者による講演を執り行いますので、ご多忙中とは存じますが、ぜひともご来場いただけますようご案内申し上げます。

問い合わせ先: 特定非営利活動法人国際レスキューシステム研究機構 担当: 森田
Email: morita@rescuesystem.org URL: <http://www.rescuesystem.org>
TEL:078-641-2840 FAX:078-641-2841

第十二回競基弘賞授賞式

競基弘賞選考委員会にて慎重な議をいたしました結果、下記の受賞者を決定いたしました事、ご報告申し上げます。

第十二回競基弘賞

学術業績賞 「クローラ型レスキューロボットの開発およびその応用」

吉田 智章 (千葉工業大学未来ロボット技術研究センター 主席研究員)

奨励賞受賞者について、下記の通りご報告申し上げます。

- ・ロボカップジュニアIRS賞 『Aster:』小辻素良、緑川琳久
- ・レスキューロボットコンテスト奨励賞 『MS-R』金沢工業大学 夢考房
- ・レスキュー工学奨励賞 櫻井 伸之介 (長岡技術科学大学)
「遠隔操縦型災害対応ロボットのリスク分析を支援するフレームワークに関する一考察」

競基弘賞選考委員会委員長 松野文俊

第十二回競基弘賞授賞式

- 会期 2017年1月11日(水)14:00～
- 会場 ふたば学舎(神戸市立地域人材支援センター)1階 多目的室1-1
神戸市長田区2葉町7丁目1番18号) http://futabasyo.jp/modules/pico/index.php?content_id=31
- 主催 特定非営利活動法人 国際レスキューシステム研究機構
- 後援 兵庫県、神戸市

■プログラム

- 14:00- 開式の挨拶 国際レスキューシステム研究機構 会長 田所 諭
 - 14:05- 来賓の挨拶
 - 14:10- 選考過程説明・受賞者発表 競基弘賞委員会委員長
国際レスキューシステム研究機構 松野 文俊
 - 14:30- 授与式「学術業績賞」「奨励賞」
 - 14:50- 奨励賞受賞者の紹介
 - 15:10- 受賞者の講演「学術業績賞」
 - 15:40- 閉会の挨拶 競基弘賞委員会委員長 松野文俊
- * 懇親パーティー *
- 17:00-ホテルサンプ神戸アスタ 2階 Forest (会費制 ¥3,500)



阪神淡路大震災で亡くなられた競基弘さん
1994年3月撮影

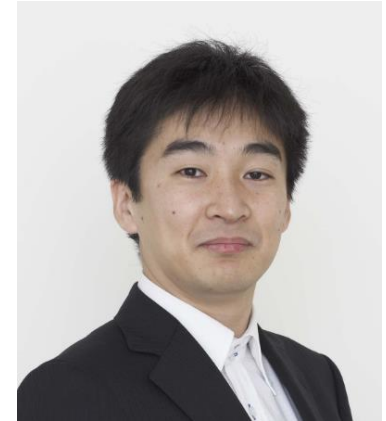
受賞者プロフィール

学術業績賞 吉田 智章 (千葉工業大学未来ロボット技術研究センター)

受賞テーマ(講演題目):

「クローラ型レスキューロボットの開発およびその応用」

クローラ型ロボットは高い走行性能を持ち災害現場などでの活躍が期待される。受賞者はこれまでQuinceシリーズ、櫻シリーズをはじめとしたクローラ移動ロボットのシステム設計とソフトウェアを開発を主導し、これらロボットの応用に向けた基盤を構築した。さらにこれらロボットを用いた複数の調査プロジェクトを遂行することで現実の問題解決に有益であることを示してきた。調査プロジェクトはQuinceによる福島第一原子力発電所建屋内調査、及び櫻壱号による熊本地震で被害を受けた宇土市庁舎の調査等であり、また災害対応以外では櫻壱号による老朽トンネル点検や加速器メンテナンストンネル点検に向けた現地実証試験などにも取り組み、評価されている。



吉田氏 略歴

- 1974年 生まれ
- 1998年 筑波大学第三学群工学システム学類 卒業
- 2004年 筑波大学工学研究科知能機能工学専攻 博士課程修了
- 2004年 筑波大学システム情報工学研究科 研究員
- 2005年 桐蔭横浜大学工学部ロボット工学科 常勤講師
- 2006年 千葉工業大学未来ロボット技術研究センター 研究員
- 2009年 千葉工業大学未来ロボット技術研究センター 上席研究員
- 2015年 千葉工業大学未来ロボット技術研究センター 主席研究員